

第4回木質資源安定供給検討会

(令和5年度)

令和5年12月12日(火) 14時00分～
江東区森下文化センター
4階 第1レクホール



認定特定非営利活動法人
全国木材資源リサイクル協会連合会

次 第

I 理事長挨拶

II 出席者紹介

III 議 題

【第1部】

1. 要望書に対する見解及び国の施策等の説明
2. 最近の木質バイオマスの需給動向について
 - (1) 各地域協会の実情
 - (2) 令和5年度木質バイオマスに係る調査結果について
 - ・木質バイオマス需要調査
 - ・木質チップ等生産会員実態調査
 - (3) F I T認定事業者取扱実績報告
3. ユーザーからの報告
 - …カーボンニュートラルにおけるスコープ3の取組み

【第2部】

講演会「我が国の物流の革新に向けた取組みの動向」

講師 国土交通省 物流・自動車局 貨物流通事業課

課長補佐（総括） 運崎 彩香 氏

要望書

2050年のカーボンニュートラルに向け、再生可能エネルギーの重要性が高まっている。木質バイオマス発電はその一角を占めており、当連合会は木材資源のリサイクルを通して、マテリアル原料とともにサーマル燃料の供給に取り組んでいる。しかし、欧州では、「木質資源のサーマル利用はリサイクルではない」という厳しい意見がある。こうした海外の動向を踏まえ、当連合会では、サーマル利用に係る CO₂排出削減や温暖化対策への貢献に関する根拠を明らかにするため、昨年度、専門家を座長、会員企業 11 社の担当者を委員、関係省庁・ボード業界をオブザーバーにお願いし、「カーボンニュートラル WG」を組織して議論を進めてきた。その成果として、「カーボンニュートラルに貢献する木材資源リサイクル」と題した報告書を取りまとめたところである。木材資源の効果的な活用は、地球温暖化対策と循環型社会の構築という二つの課題の解決に深く関連する取り組みであり、国連の定めた「持続可能な開発目標 (SDGs)」への貢献に通じる取り組みである。この取り組みを確実にするため、木質チップの関係団体で構成している当連合会として、木材資源リサイクルの事業活動における CO₂排出量の可視化や削減を進めていく必要がある。

また、近年の豪雨災害における木くずの処理について、当連合会の会員がノウハウを生かして出来得る限りの資源化に努めたところである。こうした災害対策の分野においても、持てる力を結集し、速やかな復興に取り組んでいきたい。

これまでも、独自の調査による実態把握に基づき適切な対応に努めているが、ますます多様化する社会的要請に応えていくには、木材資源リサイクルの関係法令や諸制度の的確な見直しが必要となる。

そこで、当連合会会員が社会的要請に応えていくために必要な事項について、ここに要望いたします。早期に実現できますよう、特段の配慮をお願い申し上げます。

令和 5 年 7 月 25・26 日

農林水産大臣 野村 哲郎 様
経済産業大臣 西村 康稔 様
国土交通大臣 斎藤 鉄夫 様
環境大臣 西村 明宏 様

認定特定非営利活動法人
全国木材資源リサイクル協会連合会
理事長 藤枝 慎治

環境省

1. 木質チップの有価物としての取扱い

木質資源を有効に活用するためには、木材の特徴を生かした措置が求められる。木材は再生可能な資源であり、中間処理の過程でマテリアルあるいはサーマルリサイクルに有用な木質チップとなる。最終処分が必要な材でないことから、県外からの持込みに関する規制撤廃など、リサイクルを一層進めるための措置を検討願いたい。このことについて、令和2年7月に「建設汚泥処理物等の有価性に関する取扱いについて（通知）」が発出された。木質チップは、中間処理業者と利用事業者との間で現に有価物として流通している。通知の趣旨を踏まえ、より円滑な流通が出来るよう、関係自治体が木質チップに関して条件が整えば製造時点での有価物として判断するよう、徹底願いたい。

2. 廃棄物処理業における適正処理と脱炭素経営の推進

2050年のカーボンニュートラルに向けて、改正地球温暖化対策推進法が施行され、特定排出者である企業は温室効果ガス排出量の可視化が求められた。また、すべての企業において脱炭素化経営は必至であり、廃棄物処理業においても、適正処理とともに温室効果ガス排出量の削減が求められる。そのため、適正処理と脱炭素化経営に取り組んでいる廃棄物処理業者への委託が進むよう、次の基本的事柄について取り組みを願いたい。

（1）廃棄物処理業の施設更新手続きの円滑化

老朽化により破碎機を更新する場合、能力を変更すれば知事等の許可が必要である。しかし、現在、技術の発達により省エネや防音など環境に優れた製品が多いことから、同一の場合でなくとも環境が改善され、かつ一定の範囲の能力の変更については、優良機種導入の立場から、令和3年4月に「廃棄物処理施設等の更新及び交換に係る手続きについて（通知）」が発出され、生活環境影響調査等の手続きを要さないとされた。この通知の趣旨を踏まえ、カーボンニュートラル推進の観点からも、許可事務を担当している都道府県等の部局に更新手続きの円滑化の徹底を図られたい。

（2）排出事業者責任の徹底について

委託契約やマニフェスト発行の当事者である産業廃棄物排出事業者が基本的な処理基準、委託基準を理解していないことが多い。例えば、マニフェストを持参しない、記載事項漏れ、設計数量と実績量の乖離、委託契約なしの持ち込みなどの事例が後を絶たず、徹底が必要である。そのため、排出事業者が廃棄物処理法令の知識や理解を深めて、的確に処理業務、委託業務を執行する担保として、法的資格を持つ者（例：産業廃棄物管理責任者）の配置の推奨と講習会受講制度を整備されたい。また、温室効果ガス排出量の削減についても十分意を用いるよう徹底願いたい。

（3）小規模処理施設による不適正処理の排除について

処理量が一日5t未満の場合、廃棄物処理法による設置許可が不要である。こうした小規模施設による廃棄物の不適正処理が見受けられ、適正なリサイクルを阻害する要因になっている。また、山間地域において、リース機械の移動式破碎機により許可なく現場破碎している例が見受けられる。環境負荷低減の観点からも、実態を把握するとともに監視を強化する等、不適正処理の撲滅に努められたい。

（4）廃掃法対象外の木くず破碎施設の環境に与える影響について

従来、廃棄物として処理を行っていた木くず（廃合板型枠など）が、有価物として扱われ

るケースが出てきている。この処理ルートにおいては、従来と同様の破碎処理が行われて木質チップ製品となるが、有価物＝廃棄物でないという判定から、廃棄物処理法における生活環境影響調査の対象外となっている。については有価物の破碎処理においては、環境行政として騒音・振動規制法などの適切な運用により生活環境を守るための措置を講じられたい。

(5) 優良産業廃棄物処理業者認定制度における優遇措置の拡充

「産業廃棄物処理業の振興方策に関する提言」において、成長に向けた振興方策として優良産業廃棄物処理業者認定制度の強化と有効活用が謳われている。そのために許可の有効期限の更なる延長や一定の条件における施設の設置、変更手続きの簡略化など、優遇措置の拡充を図られたい。

3. 災害被災木の有効活用のために

大地震、超大型台風など自然災害の脅威が増しており、災害時には被災木の大量発生が想定される。復興を図るうえで、この災害被災木を迅速に処理する一方、資源としての有効活用が求められる。そのため、次のことを検討願いたい。

(1) 連合会の活用

災害被災木のリサイクルのためには処理ルートが不可欠で、連合会にはそのルートがあり、事前に相談を受けることで円滑な処理が可能である。したがって、処理にあたっては当連合会のノウハウを活用されたい。

(2) 災害廃棄物の区分の新設

災害被災木は一般廃棄物に区分されているが、速やかにリサイクル処理するには広域対応が必要である。そのための手続きを円滑に進めるため、災害廃棄物の区分の新設や特例の拡大などの措置を検討願いたい。

(3) 災害廃棄物処理計画の策定と保管場所の確保

災害被災木の円滑な処理のためには、自治体における災害廃棄物処理計画の策定が求められている。令和4年3月時点の市町村の策定率は72%と増加しており、取り組みの成果が表れている。その中で、災害廃棄物保管場所の確保は大切な要件であり、迅速な対応のためにあらかじめ保管場所の候補地をリストアップするなど、最大限の運用を図られたい。

(4) 柱、はりの保管場所の長期間使用

災害被災木のうち、柱、はりについては、材の性質上、マテリアル、サーマルなど様々な有効活用が可能である。そのためには、利用先の確保などの調整上、長期間使用できる保管場所の確保が求められる。そこで、飛散等の懼れが無い柱、はりを有効に活用するため、災害復興予算の柔軟な運用などにより長期間使用できる保管場所の確保を図られたい。

(5) 船輸送のための岸壁の確保

大規模災害時には一度に大量のチップが発生するためチップ受け入れ先の確保が広域になる場合があり、遠方への大量のチップ輸送は船での輸送になる。その場合、積み込み及び積み下ろしの岸壁の確保が必要となる。そこで、モーダルシフトの観点からも、あらかじめ関係する国や自治体が連携して、災害時行政が所有している岸壁を速やかに使用できるような体制の構築を願いたい。

4. 業種の認定と外国人研修生の受け入れ

(1) 連合会の活用

「産業廃棄物処理業の振興方策に関する提言」に謳われているように産業廃棄物処理業の社会的位置づけは年々重くなっている。なかでも中間処分業は、適正処理に加え、リサイクル製品の製造という役割が急激に大きくなりつつある。こうしたことから、資源の有効利用や人材確保など、今後も安定的に循環型社会づくりに貢献するため、業の実態を詳細に調査し、「その他サービス業」から新たに独立した業種として位置付けられるよう、支援願いたい。また、我が国の木材資源リサイクル技術の先進性を海外の青年に伝えるため、その実習の場として当連合会の企業の活用について検討願いたい。

(2) 安全衛生のノウハウ取得に支援を

全ての業界において安全性の向上は最重要事項である。外国人研修生を受け入れる場合、産業廃棄物処理業界は他に比べて労働災害が多く、安全な処理知識と技術の向上は喫緊の課題である。そのため、安全衛生のノウハウの取得に努める業界の取り組みを支援願いたい。

5. 脱炭素化社会の実現に向けて

(1) 連合会の活用

改正地球温暖化対策推進法により、2050 年の脱炭素化社会の実現が打ち出され、あらゆる分野で従来の発想を超えた取り組みが求められている。連合会は木質資源のリサイクルを通して、行政、市民、企業などの多岐にわたる分野の結びつきを図る団体として活動している。国を挙げて取り組む脱炭素化社会の実現に向けて、木質バイオマスを活用した様々な取り組みが可能であり、各会員の業務の特徴を生かして貢献したいと考えている。この実現のため、積極的に連合会を活用願いたい。

(2) 脱炭素化経営とコストアップへの対策

カーボンニュートラルに向けて、プライム市場の上場企業はスコープ 3 までの CO₂排出量の把握が求められている。サプライチェーンに連なる資源循環業においても CO₂排出量の可視化は重要な課題となる。そこで、DX を活用した排出量の計算と削減計画、そして促進のために工場の電力をRE 100 に変えるなどの取り組みが求められる。これらはコストアップにつながるものであり、中小企業にとって大きな負担となる。こうした取り組みを促進するための補助メニューや支援策について検討願いたい。

経済産業省

1 再生可能エネルギーの固定価格買取制度

(1) 既存事業者への影響について

再生可能エネルギーの固定価格買取制度に伴うバイオマス発電施設の計画において、本来活用が想定されていた未利用木材や一般木材のほか、建設廃材利用の計画も多く見受けられる。既存利用に影響を与えないという原則に則り、当初想定の未利用木材や一般木材の利用を最優先して、建設廃材系木質チップについては、既存利用者への流通が阻害されることのないよう、引き続き取り組みを願いたい。また、既に許可を得ている発電事業者の使用燃料の大幅な変更についても、引き続き同様の取り組みを願いたい。

(2) 運用の厳格化について

当連合会は、木質バイオマス証明の認定団体として、事業者の認定審査及びその後の確認調査については充分留意して実施しているが、制度の趣旨に反した不適正な事例が発生することのないよう、国においても罰則の創設、監視体制の強化、由来証明・製品チップの種類別出荷管理の厳格化等により、より公平な施行を図られたい。

(3) 脱炭素化経営とコストアップへの対策

カーボンニュートラルに向けて、プライム市場の上場企業はスコープ3までのCO₂排出量の把握が求められている。サプライチェーンに連なる資源循環業においてもCO₂排出量の可視化は重要な課題となる。そこで、DXを活用した排出量の計算と削減計画、そして促進のために工場の電力をRE100に変えるなどの取り組みが求められる。これらはコストアップにつながるものであり、中小企業にとって大きな負担となる。こうした取り組みを促進するための補助メニューや支援策について検討願いたい。

農林水産省

1 再生可能エネルギーの固定価格買取制度

(1) ガイドラインの基本原則の遵守について

再生可能エネルギーの固定価格買取制度に伴うバイオマス発電施設の建設によって、従来の建設廃材等の廃木材チップの分野においてもマテリアル利用からサーマル利用へのシフトが見られ、今後の木質バイオマス発電設備の急激な増加によりこの傾向はますます顕著になると考えられる。このため、従来の製紙・ボード原料など既存利用事業者へ影響を及ぼさないとするガイドラインの基本原則を守るため、引き続き取り組みを願いたい。

(2) 運用の厳格化について

当連合会は、木質バイオマス証明の認定団体として、事業者の認定審査及びその後の確認調査については充分留意して実施しているが、制度の趣旨に反した不適正な事例が発生することのないよう、国においても罰則の創設、監視体制の強化、由来証明・製品チップの種類別出荷管理の厳格化等により、より公平な施行を図られたい。

(3) 合板型枠の由来証明の確認について

合板型枠がグリーン購入法に位置づけられたことにより、版面表示により、一般木質バイオマスとして取り扱うことが明示されたところである。しかし、版面表示は一部分であり、また、廃棄間際の材であれば、老朽化による表示の消失等によりその他の合板型枠材との区別が困難で、さらにチップになれば合法木材か否か判別することは不可能である。また、桟木等の取扱いについても厳格な対応が求められる。そこで対象木材かどうか、また、再生可能エネルギー固定価格買取制度の趣旨に合致しているかどうか監視方法を確立するとともに、適正な取り扱いがされているのか評価方策を確立願いたい。

2 木質資源の地産地消の促進

2015年に国連が採択したSDGsの取組みが求められており、そのためエネルギー分野において大規模から分散化へと向かっていくことが考えられる。その際、要となるのが再生可能エネルギーであり、第5次エネルギー基本計画においてもベース電源として位置付けられた。中でも、木質バイオマスは太陽光や風力と比べて安定的なエネルギー供給を可能とする。また、森林資源を対象として地域内エコシステムの構築に向けた報告書が公表されたが、未利用木材だけでなく廃木材の活用において適正処理とともに環境負荷の少ない取り組みが求められている。そこで、不法投棄の防止、遠距離運送によるCO₂増加などを考慮し、木質資源の地産地消が実現できるような環境負荷の少ない活用システムの確立を図られたい。

国土交通省

1 再生可能エネルギーの固定価格買取制度の影響

「再生可能エネルギー特別措置法」の施行に伴い、未利用木材や一般木材を燃料として使用する計画のバイオマス発電事業者が燃料を集められないために建設廃材を燃料に使用することや、燃えやすい建設廃材を一部に利用するバイオマス発電計画も多くみられる。これらは、これまで順調に流れている建設廃材の流通に影響を及ぼすものであり、このままではこれまで関係業界が協力して築き上げてきた仕組みを壊しかねない。建設廃材系チップの既存利用者への流通が阻害されることのないよう、十分に監視、指導されたい。また、既に許可を得ている発電事業者の使用燃料の大幅な変更についても、同様の取り組みを願いたい。

2 分別可能な建設資材の開発等

新工法による木造住宅解体の場合、在来工法に比べて複合材の使用が多く、その分別が難しい。そのため、結果として廃棄物になる事例が多く発生している。そこで、循環型社会構築のため、今後建設工法や建設資材の開発・製造にあたり、分別リサイクルを前提とした工法や製品を開発するよう指導願いたい。

3 災害廃棄物を船輸送するための岸壁の確保

大規模災害時には一度に大量のチップが発生するためチップ受け入れ先の確保が広域になる場合がある。遠方への大量のチップ輸送は船での輸送になる。その場合、積み込み及び積み下ろしの岸壁の確保が必要となる。そこで、モーダルシフトの観点からも、あらかじめ関係する国や自治体が連携して、災害時行政が所有している岸壁を速やかに使用できるような体制の構築を願いたい。

最近の木質バイオマスの需給動向について

—主に量の確保と価格対応—

【北日本木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

地域全体では処理価格の変動はほとんど見られないが、一部地域において処理価格が著しく低下している地域がある。（福島県会津地域）確保状況についても、通年を通じて見ると大きな変化は見られないが、微減している感がある。

木質チップのマテリアル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

ボード業界、製紙業界とともに供給状況については変化が見られない。全体に少なめに推移しているように思われます。現在冬季間の品薄状況を踏まえて例年通り抱え込みを見せ始めている。

販売価格は、燃料の高騰により運搬費が値上がりしその分価格に反映され値上がりしているが、メーカー側の製造原価を補う状況にはない。（燃料・電気代高騰等による製造原価UP）

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

原油価格高騰、円安の影響からか、PKS、海外産ペレットの価格が値上がっており、その代替として、建設廃材木質チップの需要が高まって来ている。それとともにこれから冬季にかけて雪国特有の品薄状態になる為、抱え込み需要があえている。マテリアル同様運搬費が値上がりした分価格に反映され値上がり状況にある。

しかしながら、メーカー側の製造原価を補う状況にはない。（燃料・電気代高騰等による製造原価UP）

FIT のバイオマス証明事業者認定状況について

2023年度 2事業所新規認定、2023年度更新事業所3か所中 2事業所更新 1事業所更新予定、2023年12.1現在 27事業所認定です。

【関東木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

1 確保状況

- ◆ 令和5年4月～9月の廃木材等の入荷状況は、新会員の加入も寄与し、前年比2.4%の増となっている（新会員の寄与分：0.8%）。
- ◆ コロナ禍前の平成31年度と令和4年度の継続会員での比較では、3.9%の減であり、コロナ禍前の水準に戻っていない。
- ◆ 関東協会は、南関東地区、中関東地区、北関東地区の3つのエリアに分かれるが、南関東は9.1%の増、中関東は3.2%の減、北関東は1.7%の増になっている。

2 処理価格

- ◆ 総じて前年並みだが、2024年問題、諸経費の高騰を踏まえ、今後、価格改定の動きが見込まれる。

木質チップのマテリアル供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

1 確保状況

- ◆ 木質チップは、総じて確保されており、生産に支障を来すような状況にはなっていない。今後、昨年稼働したパーティクルボード工場の本格稼働により、影響が生じる可能性もある。
- ◆ また、円安の加速による輸入チップの高騰から、製紙・ボードとともに国内チップの集荷を引き続き強化しており、その需要には追いついていない。

2 販売価格

- ◆ 販売価格は大きな変化がなく前年並みだが、2024年問題、諸経費の高騰を踏まえ、今後、価格改定の動きが見込まれる。

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

1 供給状況

- ◆ ボイラーのトラブル・定修による休転の影響もあり、需要は満たされている。一時、チップ受入制限をした事業者もあった。
- ◆ 11月中旬以降、休転となっていたボイラーが再稼働することから、チップユーザーの在庫の確保状況によっては、冬場の供給が不安視される。

2 販売価格

- ◆ 販売価格は大きな変化がなく前年並みだが、2024年問題、諸経費の高騰を踏まえ、今後、価格改定の動きが見込まれる。

FITのバイオマス証明事業者認定状況について

- ◆ 2023年12月1日現在の認定事業者は、42事業所です。
- ◆ 令和5年度は、これまで6事業所を継続認定。

【東海木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

4月～9月の入荷量としては、前年比 108.2%と増量。

特に解体業の入荷増が著しく、10月よりアスベスト事前調査者資格を有する者による事前調査が必要になる為、4月～9月に関しては駆け込みで解体工事案件の木くずの入荷があったと思われる。その反動分、10月以降の解体案件微減が懸念される。

また、協会連合会でも発表された住宅着工予測を基に考えるとさらなる解体案件減少が予想できる為、上半期と打って変わって法律改正の影響や市況からは苦戦が予想される。

処理単価：多少の値下げ傾向

木質チップのマテリアル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

2023年4月～9月のマテリアル出荷に関して、前年比 95.3%と微減。要因としては

- ・出荷先においてボイラートラブル等が発生
- ・地域によってはFITボイラーの影響により、集荷に苦戦している状況
- ・運送業界の2024年問題の影響等により、運送費の高騰が懸念事項として発生

期間中の販売価格は、前年比数百円/BDT の上昇

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

2023年4月～9月のサーマル出荷に関して、前年比 102.1%と微増。要因としては、

- ・為替の影響により輸入により対応をしている燃料チップが軒並み高騰した為、
国内燃料チップの調達に方向転換
- ・運送業界の2024年問題の影響等により、運送費の高騰が懸念事項として発生

期間中の販売価格は、前年比数百円/BT の上昇

FIT のバイオマス証明事業者認定状況について

東海協会 14会員のうち 5会員（7拠点）取得済み

【近畿木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

1. 確保状況（入荷状況）

廃材の入荷状況は、2021年は対前年比98%、2022年は対前年比96%、2023年は1～9月までの実績で対前年比101%とほぼ横ばいとなっています。また、直近3ヶ月（7～9月）では対前年比103%となっていますが、1月～6月は対前年比若干の減少で推移しており、入荷減少に歯止めがかかる兆しを感じるまでには至っていません。

2. 処理価格の動向

ここ数年処理価格は下がり基調です。

木質チップのマテリアル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

1. 供給状況

廃材の発生減少のため入荷は厳しい状況が続いているが、現状のところ安定供給できています。

2. 販売価格の動向

チップ価格は製紙用・ボード用ともにほぼ前年並みの価格で推移していますが、原油価格高騰の影響で運送費の見直しが行われており、運送費を含めたチップ価格は上がり基調です。

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

1. 供給状況

廃材の発生減少のため入荷は厳しい状況が続いているが、大手ユーザーのボイラーの定期点検もあり、現状のところ安定供給できています。しかし、円安の影響で石炭やPKS等の発電所の輸入燃料が高騰しており、木質チップを含めた国内材へ切り替える動きが見られ、今後もこのような動きが加速するようだと、安定供給に支障が出る事態も考えられます。

2. 販売価格の動向

燃料チップの価格は前年並みで推移していますが、マテリアル向けと同様に原油価格高騰の影響で運送費見直しが行われており、運送費を含めたチップ価格は上がり基調です。

FIT のバイオマス証明事業者認定状況について

2023年12月1日現在の認定事業者数は、10社 延べ13件です。

【中四国木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

- ・山陰、四国ともに、前年よりも入荷量は減少。原材料価格の高騰、賃上げ等も踏まえ、今後も、処理単価の値上げを実施する。
- ・山陽（岡山）
前年度より廃材の発生量が減少。
近年ランニングコストの上昇を考慮すれば値上げを実施したいが、廃材確保の観点から価格は据え置きの状態。
運搬コストは 価格上昇傾向。

木質チップのマテリアル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

- ・山陰、四国ともに、円安および解体工事の減少等により、製紙用・ボード用とも、需要は堅調。販売単価は上昇済み。今後の販売価格動向は、やや不透明。
- ・山陽（岡山） 山陰と同様に解体工事の減少傾向で需要は堅調だが販売価格は横這い。ただし運送コストは上昇傾向なため、トータルでは値上がり気味。

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

- ・山陰、四国ともに、需給が逼迫しており、FIT制度のデメリット（＝固定価格買取制度により、売電価格を上げられない）が顕在化し、燃料の集荷が困難な木質バイオマス発電所は、その稼働を落として、操業している。また、脱炭素・脱石炭の動きもあり、FIT制度以外の燃料用チップ（特に建廃系）の需要・引き合いは強い。加えて、75,000kw 及び 50,000kw の大型木質バイオマス発電所の稼働を控え、燃料用の動向は不透明感が極めて強い。
- ・山陽 山陰四国と 同様。

FIT のバイオマス証明事業者認定状況について

- ・認定事業者 2社 ①（徳島県 1社：認定：令和 4 年 12 月 1 日）
②（岡山県 1社：認定：令和 3 年 1 月 1 日）

【九州木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

廃木材の確保状況は基本的に横ばいか、減少している
今まで積極的にチップを作っていた業者、また生産をやめていた業者がチップ需要の高まりとともに生産を再開し、廃木材の取り合いが発生している。
熊本地区は、震災の影響か解体案件が著しく減少している。
処理価格は大きな変動無いが一部地域で値下げが起きている。

木質チップのマテリアル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

マテリアル向け供給状況は、大きな変化はない。
メーカーの生産量は販売需要が減少しており、落ち着いている。
遠距離より集荷している為、2024年問題の影響が大きく、深刻な問題として捉えている。
チップ販売価格は値上がりした。

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

サーマル向け供給状況は、既存のユーザーが使用量を増やす方向であったり 新規チップ使用を計画するユーザーだったので增加傾向である。一方で廃木材の発生は減少傾向な為、タイトな状況になっている
今後益々この状況は拡大していくだろう。

販売価格は値上がり傾向にある。（一部値上がりしている所もある）

FITのバイオマス証明事業者認定状況について

2023年12月1日現在
13社 23事業所

令和5年度 木質バイオマス需要調査結果

本年度の「木質バイオマス需要調査」を実施しましたので、集計結果を報告いたします。

1. 調査期間 令和5年7月24日(月)～8月31日(木)
2. 調査対象 全国の木質チップ需要施設 全236か所
うち製紙会社43か所、ボード会社22か所、電力会社124か所、セメント会社12か所、その他35か所
3. 調査方法 郵便またはメールで調査票を配布
4. 回答状況 回答数:153 回答率:65% (昨年度は237か所調査、154件回答)

設問1 木質チップ、チップ以外の木質バイオマス(PKSやペレット等)の利用について

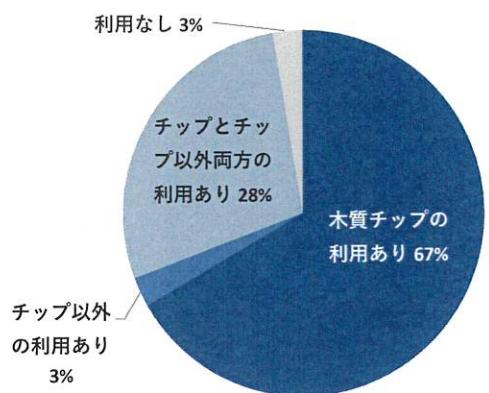
木質チップの利用あり	102
チップ以外の木質バイオマスの利用あり	4
チップとチップ以外両方の利用あり	43
利用なし(稼働準備中・事業所閉鎖含む)	4
回答数	153

【利用あり事業所の用途の区分】

マテリアル	マ・サ両方	サーマル	合計
10	13	126	149

※以下、「マ・サ両方」はマテリアルとサーマルの両方を運用している事業所の意

木質チップ、チップ以外 (PKS・ペレット等) の利用割合



設問2 木質チップ等のサーマル利用を行っている事業所の年間予定量とその割合 (回答数:129)

サーマル利用の種別年間予定量

単位:t ()内は前年比

未利用材チップ(間伐材等)	3,825,316(+19.7%)
一般木質チップ	2,025,514(-7.0%)
輸入材(チップ・PKS・ペレット等)	※4,560,802(+82.4%)
リサイクル材	3,432,325(+1.0%)
一般廃棄物・その他	440,276(-9.8%)
合計	14,284,233(+21.4%)

※ 今回、輸入材を使用する事業所の新規回答が多く、大幅増になった。

(単位:千t)

種別年間予定量の推移

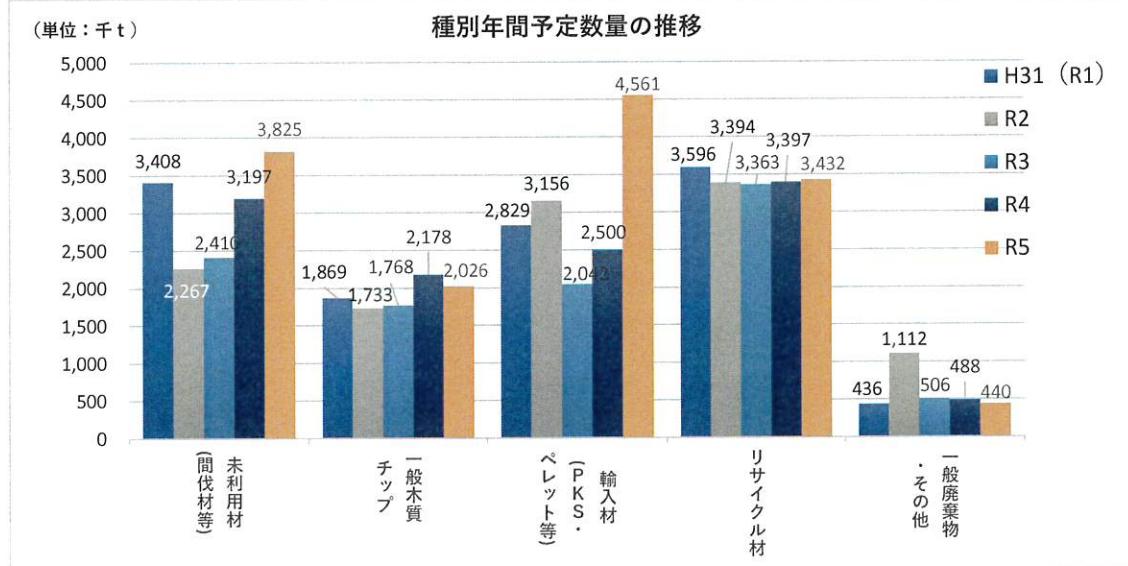
H31 (R1)

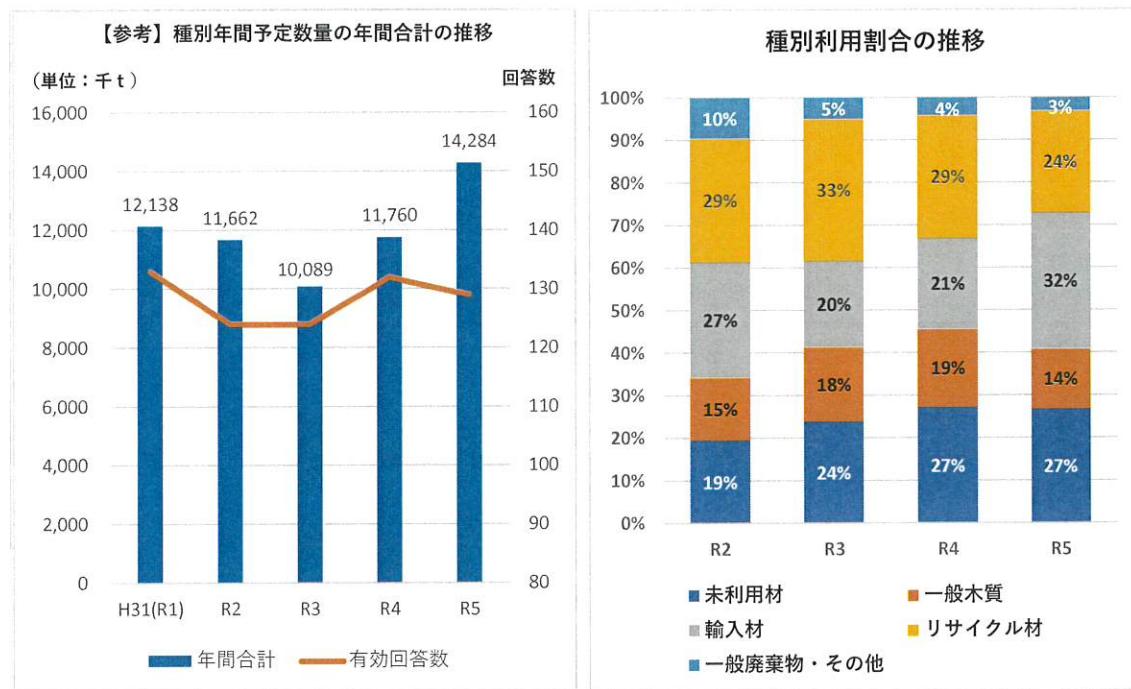
R2

R3

R4

R5





設問3 木質チップ及びチップ以外(PKSやペレット等)の確保状況について (回答数:146)

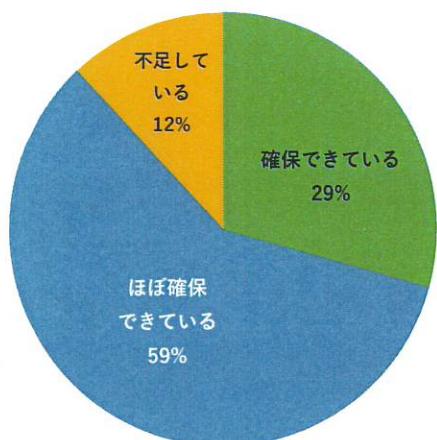
木質チップ及びチップ以外の確保状況

確保できている	42
ほぼ確保できている	84
不足している	17
回答数	143

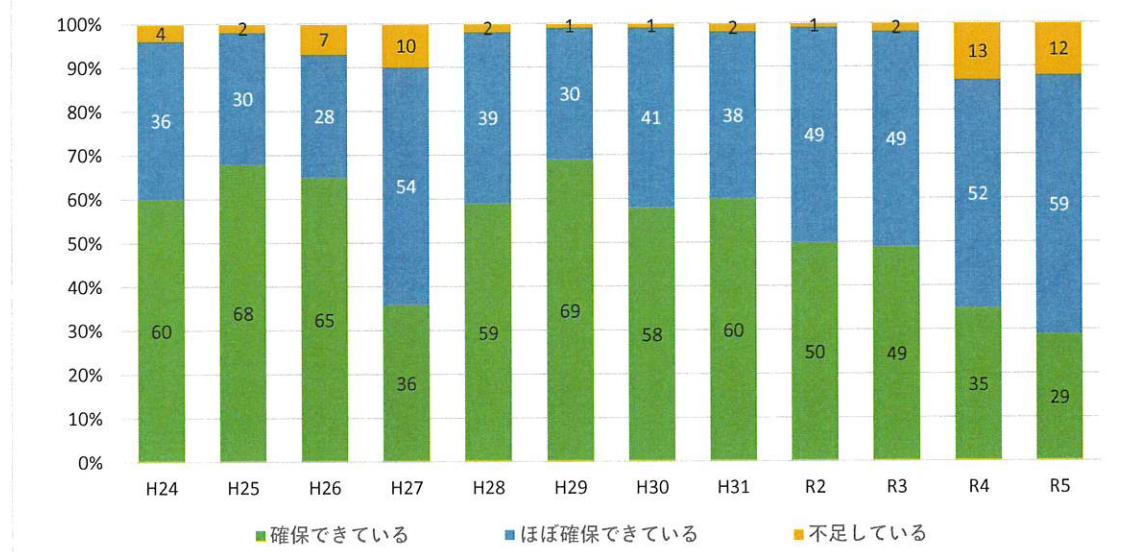
用途別の確保状況

	確保できている	ほぼ確保できている	不足している
マテリアル	1	8	1
マ・サ両方	6	5	1
サーマル	35	71	15
合計	42	84	17

木質チップ及びチップ以外の確保状況



木質チップ及びチップ以外の確保状況の推移



設問3で「不足している」と回答した事業所で、月にどのくらい不足しているか（過去6か月の平均値）

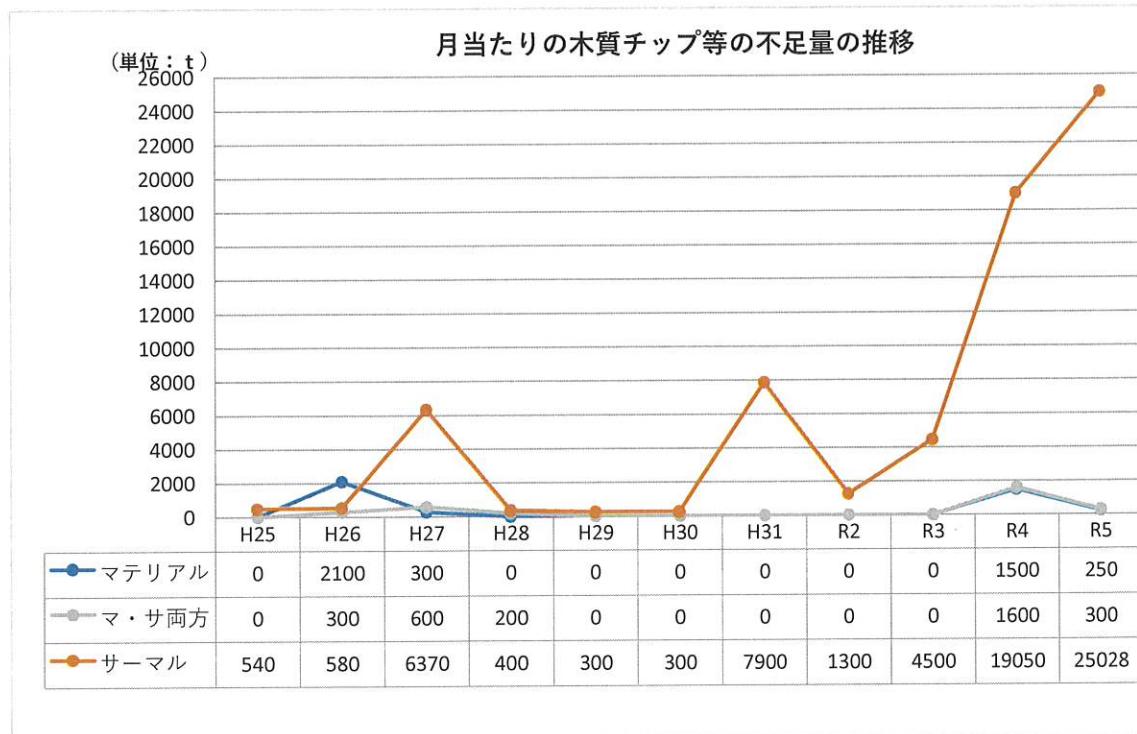
不足量の有効回答数

マテリアル	1
マ・サ両方	1
サーマル	15
合計	17

月当たりの不足量

マテリアル	250
マ・サ両方	300
サーマル	25,028
合計	25,578

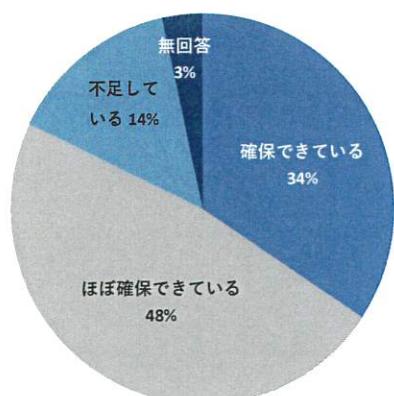
単位: t



サーマル利用の事業所のうち、「売電」用途事業所の木質チップ等の確保状況

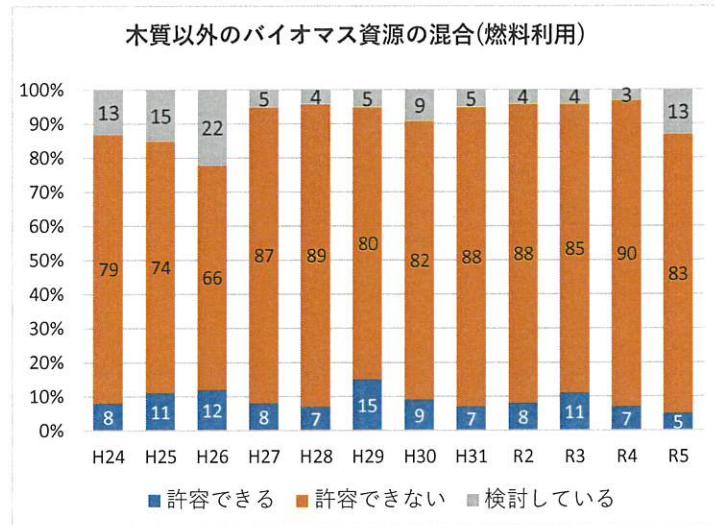
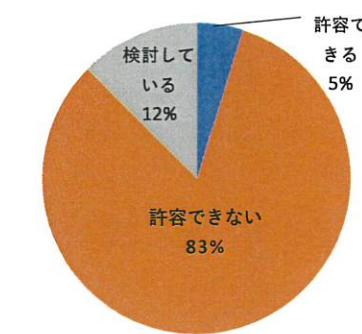
サーマル利用で「売電」用途の事業所の有効回答数	90
うち、確保できている	31
うち、ほぼ確保できている	43
うち、不足している	13
無回答	3

売電用途における確保状況

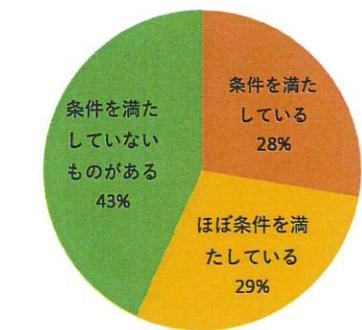


※ 売電用途には熱供給用途・自家発電用途との兼用含む。

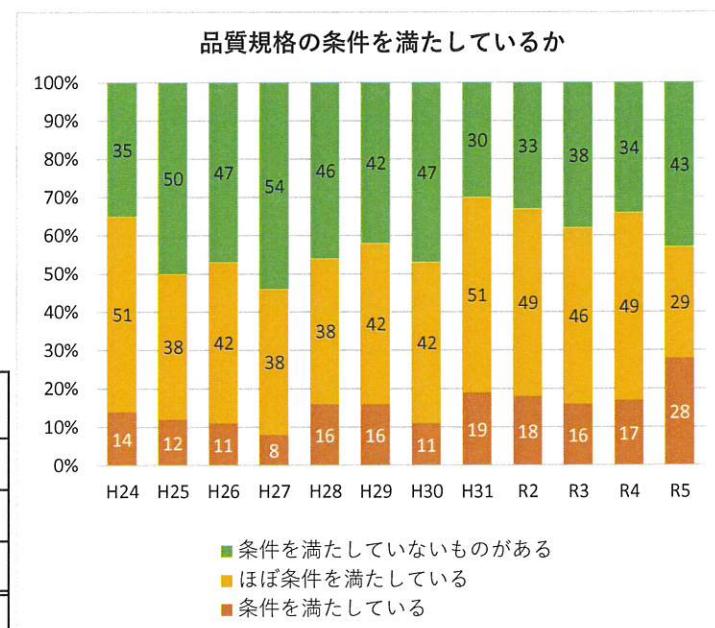
設問4 燃料利用の場合、木質以外のバイオマス資源(畳や草等)の混合について (回答数 144)



設問5 木質チップ、チップ以外(PKS・ペレット等)の品質規格について (回答数 148)



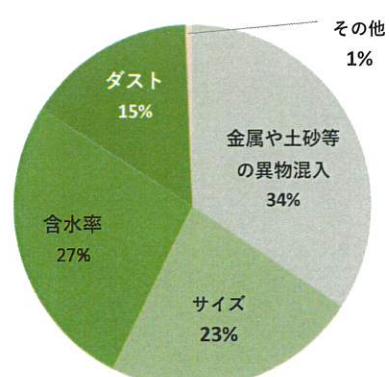
	条件を満たしている	ほぼ条件を満たしている	条件を満たしていないものがある
マテリアル	6	2	1
マ・サ両方	3	4	6
サーマル	32	37	57
合計	41	43	64



「条件を満たしていないものがある」と回答した場合の、満たしていない項目(複数選択可)

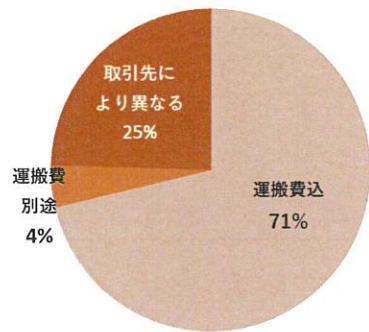
	金属や土砂等の異物混入	サイズ	含水率	ダスト	その他
マテリアル	1	1	0	0	0
マ・サ両方	6	3	3	3	1
サーマル	51	35	42	23	0
合計	58	39	45	26	1

条件を満たしていない項目の割合

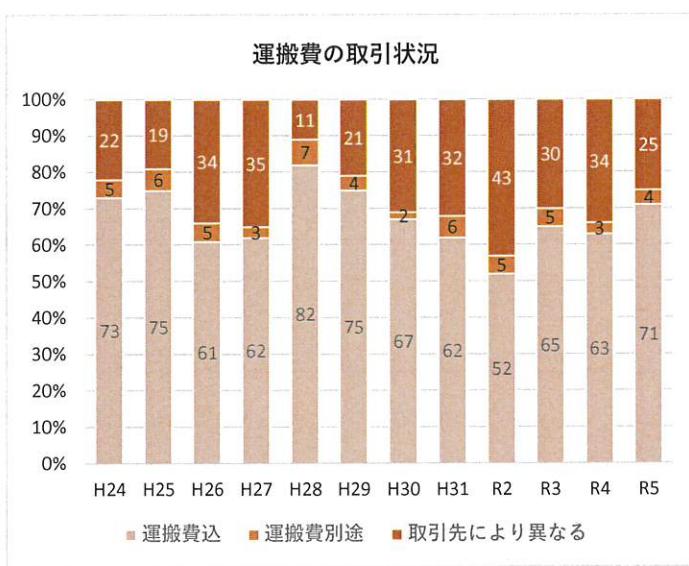


設問6 運搬費の現在の取引条件について

(回答数 143)



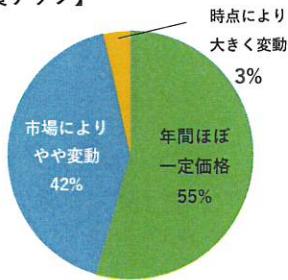
	運搬費込	運搬費別途	取引先により異なる
マテリアル	6	0	3
マ・サ両方	5	2	6
サーマル	91	4	26
合計	102	6	35



設問7 木質チップ及びチップ以外(PKSやペレット等)の価格の動きについて

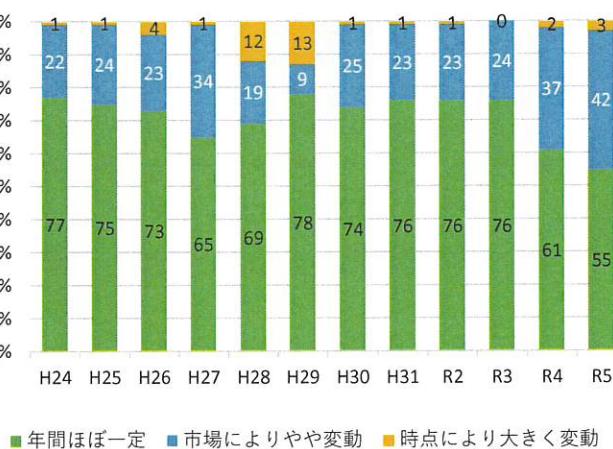
(回答数 143)

【木質チップ】

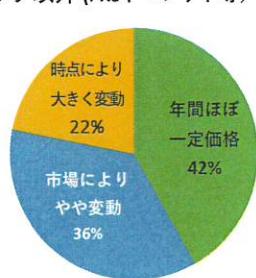


	年間ほぼ一定価格	市場によりやや変動	時点により大きく変動
マテリアル	3	6	1
マ・サ両方	7	6	0
サーマル	68	48	4
合計	78	60	5

木質チップ価格の動きについて

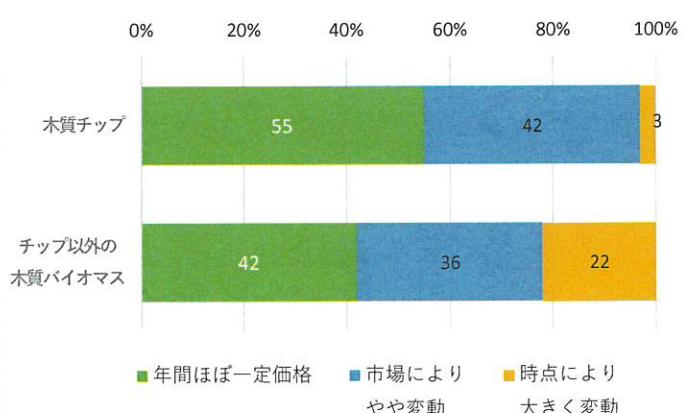


【チップ以外 (PKSやペレット等)】



	年間ほぼ一定価格	市場によりやや変動	時点により大きく変動
マテリアル	0	0	0
マ・サ両方	2	0	0
サーマル	21	20	12
合計	23	20	12

木質チップ価格の動きとチップ以外の価格の動き

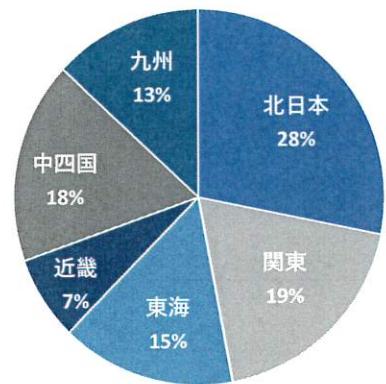


【地域別集計結果】

全国を6ブロックに分けて集計
(地域分類は連合会の基準による)

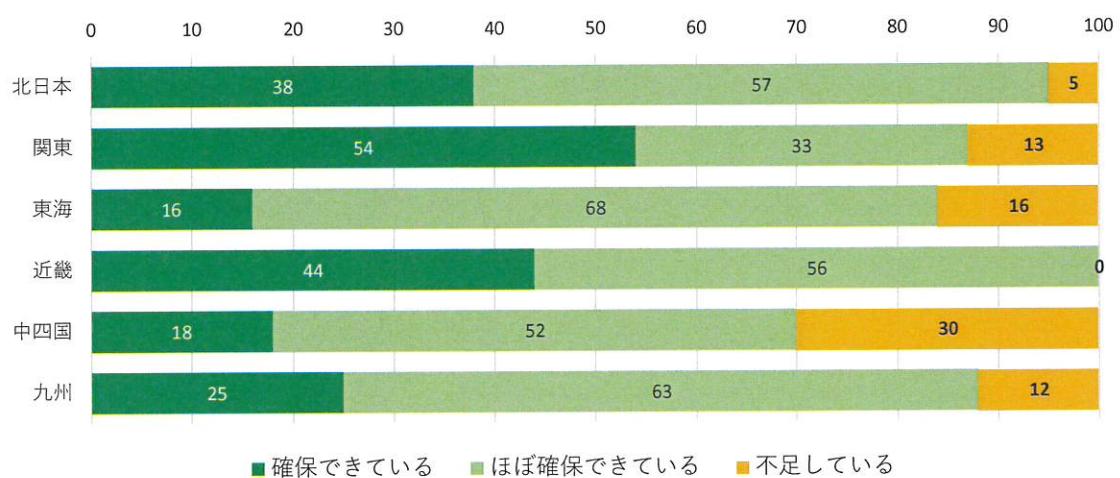
北日本…北海道・青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島・新潟
関東…栃木・群馬・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野
東海…静岡・愛知・三重・岐阜・富山・石川・福井
近畿…滋賀・京都・兵庫・奈良・大阪・和歌山
中四国…鳥取・岡山・島根・広島・山口・香川・徳島・愛媛・高知
九州…福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄

地域別回答事業所割合



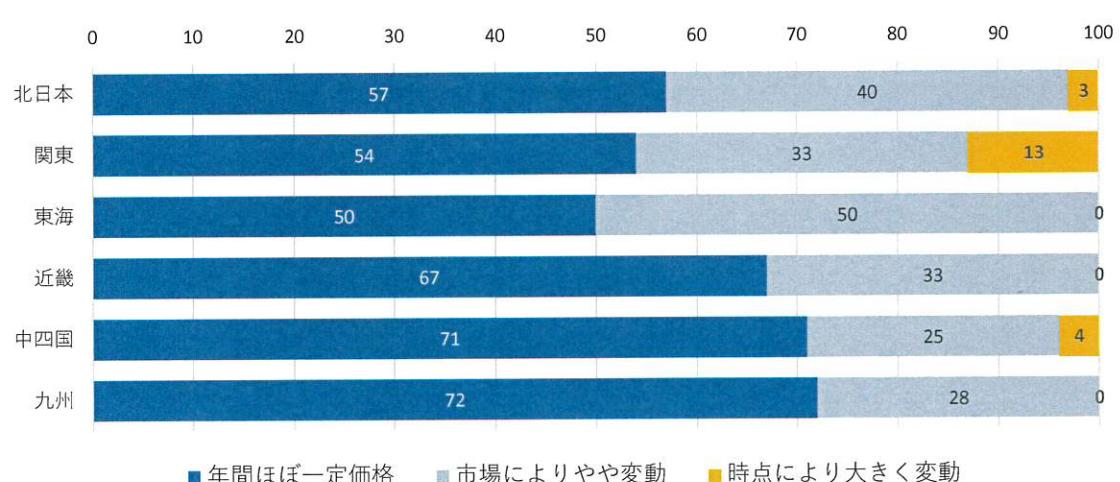
木質チップおよびチップ以外の確保状況について

単位：%



木質チップ価格の動きについて

単位：%



供給者へのご意見・ご要望

【異物混入防止】

- ・建廃燃料に金属系の異物が多く、アルミによる炉内状況の悪化が年々増加し、メンテナンス費用の増大につながっている。
- ・主に建築廃材、解体材の木質チップをボイラー燃料にしており、金属くず、砂、小石等の異物混入が多い。ボイラーラー層内管、炉壁等の損傷の原因となるため、異物混入防止をお願いしたい。
- ・設備に損傷を与える可能性があるので、異物混入、特に30cm以上の大型のものが混入しないように注意してほしい。最悪の場合操業停止になり、供給をストップしていただくことになるので、その認識をしていただくと同時に、混入撲滅に注力してほしい。
- ・建築廃材由来の木質燃料チップに金属異物の混入が散見。特にアルミ、SUS材の磁選機で取り除けるものが多い。また、コイルの混入もみられるため、選別強化の徹底をお願いしたい。
- ・チップ内に、異物、規格外の木片などの混入があり、設備、機器の故障、トラブルが発生した事象がある。当社は発電事業を行っており、異物混入による設備トラブルは発電停止に直結するため、品質管理の徹底を供給者様にお願いしたい。
- ・マテリアルにおいては異物・金属類の混入対策強化の実施を。
- ・サーマルにおいては砂混入による燃え殻の増加あり。
- ・未利用材チップに関し、水分値や土砂などの異物混入の低減など品質の向上及び供給の安定に向けた取り組みをお願いします。

【異物・含水率・サイズ】

- ・燃料チップ内への異物(金物や土砂分)の混入防止の徹底と、付着水分管理の徹底(保管時の管理、発塵対策の水吹き、運搬時のシート掛け)をお願いいたします。
- ・マテリアル用:ダスト、金属、プラスチック及び糸くず等の除去を徹底してほしい。
- ・サーマル用:含水率が高くならないよう、保管管理を徹底してほしい。
- ・バイオマスボイラーの安定操業継続のために、チップ品質(サイズ、異物、ダスト、水分)の維持管理、向上をお願いします。
- ・雨季における燃料の水分率上昇を抑えてもらいたい。
- ・大雨災害の時などの品質(水分量)確保をお願いしたい。
- ・含水率の基準を設けているので、搬入前に事前に含水率の計測をしてほしい。
- ・土砂分を燃料費から引ける契約にしたい。
- ・品質管理ができていない事業者も多く、以下の事項について徹底してほしい。
 - ◇石、砂、金属類などの異物除去
 - ◇数十センチ以上のオーバーサイズ品の選別
 - ◇水分管理(水分過多の製品をなくすこと)

【安定供給・価格・その他】

- ・季節要因や休日～祝日など連休による処理減少を緩和してもらい、供給量の不安定をなくしてもらいたい。→年間を通して安定供給できる体制、品質安定の担保を希望いたします。
- ・木質チップの安定供給および異物の混入防止、水分量の基準遵守などお願いしたい。
- ・価格高騰により採算ラインが崩れてきている。経営を逼迫させている。事業継続について協議するレベル。

- ・世界情勢の影響により、燃料用丸太価格の高騰が続いている。固定価格買取制度(FIT制度)により発電所を稼働しており、売り上げの上振れが見込めないことにより、原価の圧縮が課題であることをご理解いただきたい。
- ・燃料チップは製造工程上、多少金属類が混じることは理解しているが、ステンレスやアルミ、磁選機で取れるはずの釘類が多い。また、土砂類も多く、混入金属や土砂類によるボイラーへのダメージが年々増しており、修繕費が増加している状況下、供給者側からの値上げ要請は厳しい。
- ・安定したチップの価格を望む。
- ・発電用材(C,D材)が製紙パルプ用に流通することが増えているので、バイオマス発電向けに適正価格で流通するよう調整いただきたい。
- ・2024年の物流問題を控え、運賃値上げ分の負担をユーザーだけに負わせるのではなく、木質廃材の処理費維持・値上げによる安値で安定した供給をお願いいたします。
- ・異物混入による設備トラブルを回避すべく、サプライヤーでの適合チップ規格遵守をお願いいたします。
- ・年間を通して安定的なチップの供給をお願いいたします。
- ・特に冬季にチップが不足するので、年間を通して安定的な持ち込みをお願いしたい。
- ・未利用材の増加(計画的な植林計画に基づく間伐材の増加)を希望します。
- ・弊社への供給者においては、需給関係悪化の中、材の確保にご尽力いただいている。今後も品質管理および供給安定化に努めていただきたい。
- ・建築廃材の受入減少に伴い、チップ品質も下がっているのも理解しています。品質不適格の発生時には、都度、業者様に連絡させていただき、修正いただいている。今はとにかく量の確保が大事なので、ご協力お願いします。
- ・足元、発生減少傾向にあり、収集に苦戦しております。引き続き安定使用に努めますので、安定供給にご協力ををお願いいたします。

連合会へのご意見・ご要望

【異物混入防止】

- ・品質に対する意識改善をしてほしい。
- ・徐々に意識向上しているのは感じますが、燃料チップ品質に対する更なる意識向上をお願いしたい(燃料チップは中間処理における残渣分ではなく、売り物であり商品であるという意識付け)。運送業界との連携が必須項目になってくると思いますので、その点もよろしくお願いたします。
- ・需要調査結果に基づき、特に品質管理に係る事項について、供給者サイドへの改善要求強化をお願いしたい。
- ・異物混入によるトラブル回避のため、供給者側への意識向上、意識改善を連合会からもアナウンスしていただきたい。
- ・供給者に対して品質管理を徹底するよう指導してもらいたい。
- ・チップ製造者、供給者に品質指導など行ってほしい。

【異物・含水率・サイズ】

- ・連合会会員企業より建築廃材由来のサーマル燃料を購入しているが、連合会発行の「品質規格」でいうところの副産物であるEチップ(5mm以下のダスト)が相当量の20%を超える割合で納入されている現状、社内や供給先との間でこの品質規格が原因の様々な問題に発展している。会員企業がこの品質規格をしっかりと守るよう指導願いたい。
- ・金属や土砂等、異物混入のないチップ及び安定したサイズ、含水率のチップを提供するよう指導してほしい。

【安定供給・価格・その他】

- ・不足に至っていないが、近隣にも発電所が増え、さらに今後の建設の計画もあるため、将来的には不足が予想される。
- ・今後の木質チップの需給予測が知りたい。
- ・今後の建築廃材、解体材の供給等についての情報提供。
- ・木質バイオマス需要調査について大変参考になります。
- ・健全な木材資源の循環活用の推進をお願いいたします。
- ・[関東木材資源リサイクル協会独自の取り組み]休炉情報を配信していただき、ありがとうございます。引き続き共有すべき情報があつたら共有していきたいと思います。
- ・[関東木材資源リサイクル協会独自の取り組み]需給バランス予測について、協会員以外の需要家の情報も予測して盛り込んでいただけると、活用の幅が広がるよう思います。ご検討の程、よろしくお願ひいたします。
- ・運送業における2024年問題の対応で各社苦労している。連合会で取りまとめいただき、効率の良い運送ルート構築等を検討いただきたい。
- ・引き続き国の要望に力を入れていただき、仕組みの不備で安定供給が損なわれることがないよう活動していただきたい。
- ・今回のアンケートの意見について、「どのようなことをしたのか」、連合会として「何をしたのか」の報告をお願いしたい。
- ・引き続き、調査結果を関係各所へ情報共有してほしい。
- ・木質チップを燃焼させた際に出る灰の(安価な)処理先が少なく困っている。処理先等の情報提供等を行ってほしい。
- ・本集計で何らかのフィードバックを期待しています。
- ・バイオマス需要調査結果の公表に、連合会としての見解や意見も加えてほしい。
- ・林業への雇用促進活動。
- ・今後中国経済が回復すれば、再び中国向け原木輸出量が増加し、チップ生産業者への原木集荷に影響が出る恐れがあり、今後の安定供給に不安がある。
- ・調査結果を需給安定化等、何らかの対策に活用できないかご検討いただきたい。
- ・木質バイオマス(FIT)新設による既存業者への影響について、調査及び情報共有する場を設けてほしい。

令和5年度木質チップ等生産会員実態調査結果

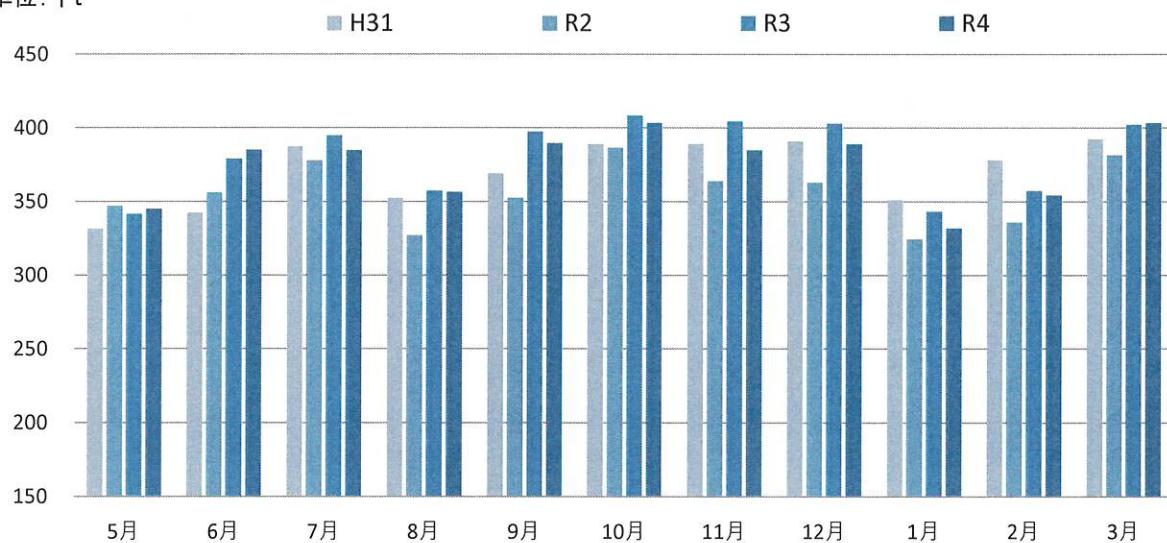
地域協会別取扱量【出荷量】R4年4月～R5年3月

単位:千t (前年比)

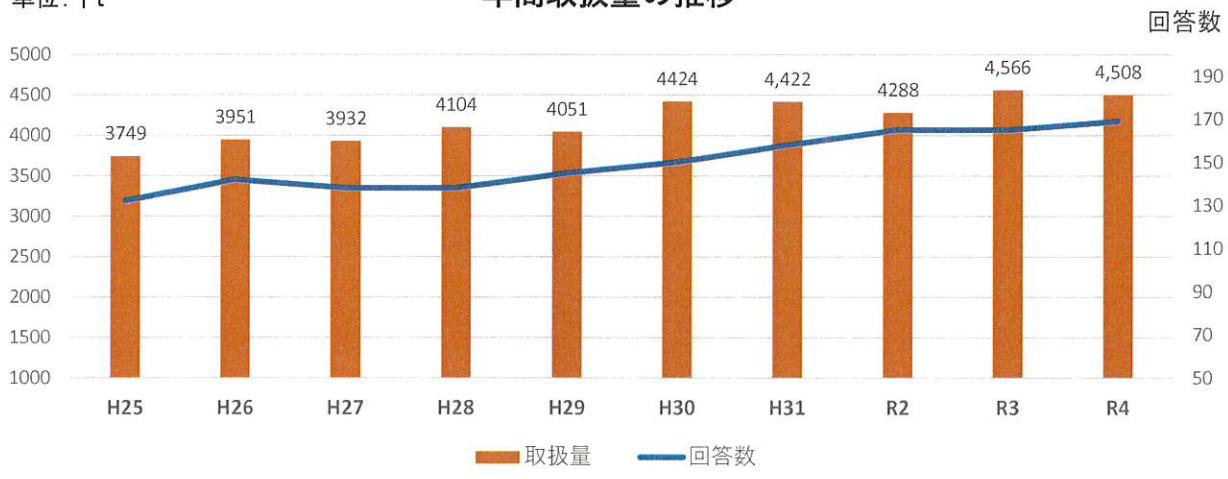
	北日本協会 53社	関東協会 68社	東海協会 13社	近畿協会 10社	中四国協会 17社	九州協会 6社	合計 167社
4月	56.9	180.6	57.8	40.9	13.1	29.5	378.8 (+0.7%)
5月	58.6	159.3	51.6	37.3	10.9	27.3	345 (+1.1%)
6月	56.3	185.5	59.1	42.3	13.6	28.5	385.3 (+1.6%)
7月	60.4	184.0	58.2	40.4	13.2	28.8	385 (-2.5%)
8月	54.5	170.0	53.7	37.2	12.2	29.1	356.7 (-0.2%)
9月	55.4	191.5	58.9	38.3	13.9	31.6	389.8 (-2.0%)
10月	53.7	202.9	59.4	42.3	13.1	32.1	403.5 (-1.2%)
11月	58.4	185.7	55.7	41.2	12.6	31.5	385.1 (-4.9%)
12月	60.0	189.2	55.6	39.4	14.3	30.6	389.1 (-3.4%)
1月	47.0	156.4	52.1	35.0	12.2	29.3	331.9 (-3.3%)
2月	51.1	167.7	55.2	38.4	12.7	29.3	354.5 (-0.9%)
3月	55.2	196.3	60.7	44.7	15.4	31.3	403.5 (+0.3%)
合計	667.6	2,169.1	678.0	477.4	157.1	358.9	4508.2 (-1.3%)

直近4か年の月別取扱量の推移

単位:千t



年間取扱量の推移



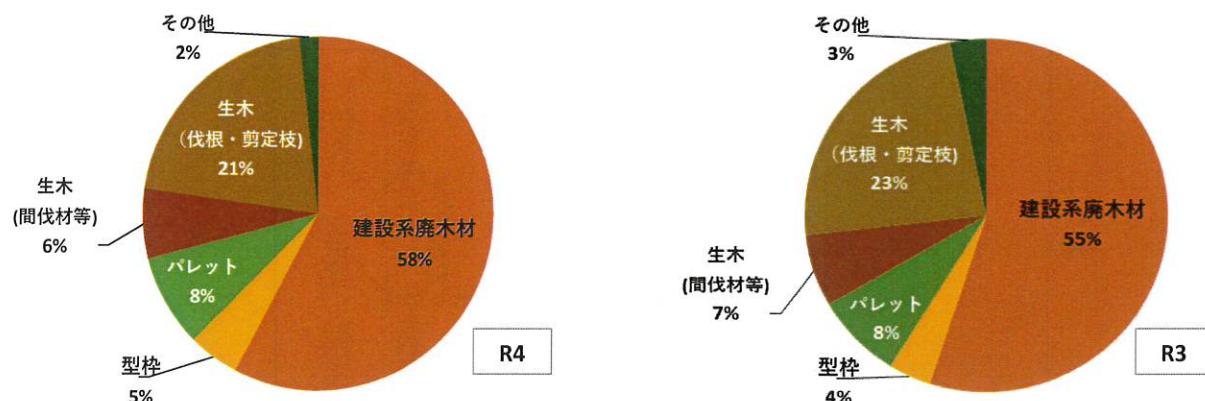
地域協会会員品目別取り扱い量(R4年度)

単位:千t

	北日本協会	関東協会	東海協会	近畿協会	中四国協会	九州協会	合計(全国)
有効回答数	53	68	13	10	17	6	167
建設系廃木材	336.1	1,349.0	449.7	311.8	72.3	226.8	2,745.7
型枠	38.9	102.3	34.3	26.3	12.1	10.8	224.6
パレット	52.6	188.2	73.1	48.4	18.6	20.4	401.3
生木(間伐材等)	136.5	93.7	20.0	3.2	38.7	11.8	303.8
生木(伐根・剪定枝)	153.5	550.7	101.6	58.9	46.0	83.6	994.3
その他	4.0	76.1	3.2	0.0	1.9	1.2	86.4
合計	721.6	2,359.9	681.9	448.6	189.7	354.5	4,756.2

入荷量より算出

廃木材の品目別取扱割合と前年対比



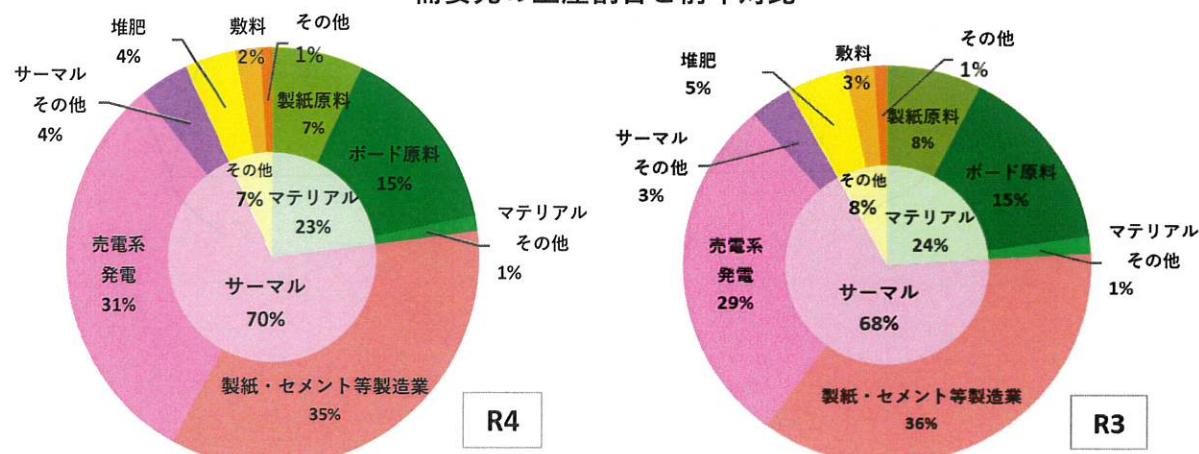
生産割合について(R4年度)

単位:千t

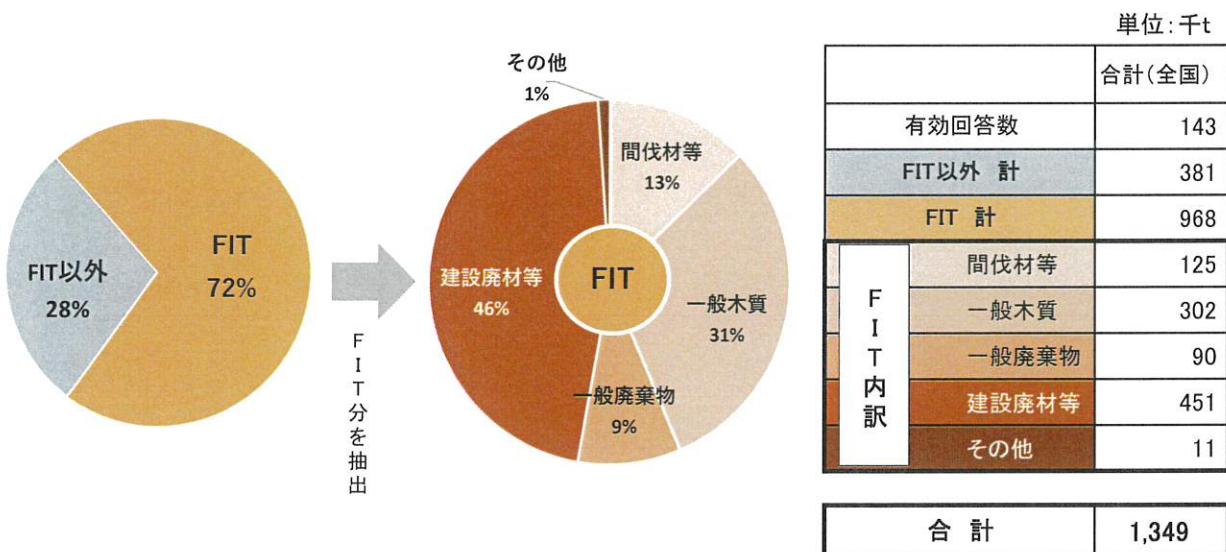
	北日本	関東	東海	近畿	中四国	九州	合計(全国)	
有効回答数	53	68	13	10	17	6	167	
全体量	664.5	2,261.8	661.2	468.3	157.1	358.8	4,571.7	
マテリアル	製紙原料	45.3	75.4	92.5	96.2	14.4	0.0	323.9
	ボード原料	63.1	311.4	57.7	137.0	30.4	70.5	670.1
	その他マテリアル	3.2	4.8	3.4	39.1	1.0	3.9	55.4
サーマル	製紙・セメント等製造業	218.6	887.1	265.0	112.4	11.3	105.1	1,599.6
	売電系発電	232.3	813.2	135.6	75.1	75.2	100.5	1,431.8
	その他サーマル	26.8	12.8	63.6	0.0	7.1	67.1	177.4
その他	堆肥	49.4	90.7	14.4	8.4	14.9	0.6	178.4
	敷料	14.5	60.9	6.0	0.0	2.0	7.6	91.0
	その他	11.2	5.5	23.0	0.0	0.9	3.5	44.2

出荷量より算出

需要先の生産割合と前年対比



売電系発電への販売現況



【メーカーまたはユーザーへの要望事項】

- チップの引き取り単価の引き上げ(運賃の値上げによるため)。
- 納入車両待機時間の削減。
- 安定的な需要(ストックヤードの確保等)。
- サーマル系建廃チップ買取価格の見直しをお願いしたい。
- ユーザー間での定修期間の調整。
- 2024年4月に実施される運送事業者の時間外労働規制に対し、木質チップ運送事業者の運送費見直し(運賃値上)や待機時間の緩和など、具体的対応のご協力をお願いしたい。
- 運搬車両の待機時間削減をユーザー、メーカーで共に取り組む体制を構築したい。
- チップ需要の高まりに反比例し、建築廃材の発生量は減少している。メーカー様においてはチップ価格の値上げをお願いしたい。

【連合会への要望事項等】

- バイオマス向けチップを出荷しているが、搬入受け入制限があり思うように出荷できない。安定供給が持続できるように、関係先に働きかけをお願いしたい。
- 国産材を活用した木質バイオマス発電におけるGHG排出係数が公開されていますが、廃棄物由來の木質チップに関するGHG排出係数等の情報を見つけることができません。もし公開されていなければGHG排出量の算定にあたり、木リ協でデータの公開をしていただきたい。
- 生木・伐根材の処理先が少なく今後の受け入れ先の確保をお願いしたいと思います。
- FIT終了後のバイオマス発電施設における売電価格の下落を防いでほしい。チップが売れなくなる。
- エリアの違うチップ運搬業者との情報交換の場を作ってほしい。

建設系廃木材の発生が減少する中で、型枠材等の有価買取り業者における木質チップ製造販売業者の影響度は大きくなっています。このような木質チップの購入は、処理代を頂くことで他の原燃料と比較し安価に供給ができた木質チップの価格を高めることに繋がり、結果として需要者の購入コストが増加することになります。また、処分業許可の不要により参入障壁が下がることは、慣例を知らない新規業者を増やし、SAFなど新たな需要者へ木質チップが流れる可能性もあり、既存需要者にとって由々しき事態を招く恐れがあります。これらのことと、連合会として可能な範囲で発信していただければと思います。

- 効率的な運搬での運行時間の削減や、待機時間の削減に成功した事例、または失敗してしまった事例の情報共有をして欲しい。
- FIT認定事業者の材の集荷活動により、既存の産業に影響を及くことがないように管理していただきたい。

【合板型枠、建設廃木材・果樹剪定枝等の有価取引に係る最新の情報】

- バイオマス用として材を入れたいという業者が出てきているが、有価取引には至らない。
- 入荷量が少しずつ減ってきている。
- 相場を知りたい。
- FITの証明に関して、どのような形態で証明書等の紐付けができるのか不透明な事例が見受けられ、改めて徹底してほしい。

FIT認定事業者取扱実績報告(令和4年度)

単位:t

地域	北日本	関東	東海	近畿	中四国	九州	計
期間	R4.4.1～R5.3.31						
事業所数	26	43	7	14	2	23	115
総出荷量	412,255	1,059,560	165,609	142,658	0	616,652	2,396,734
うちFIT証明材	220,880	309,653	565	10,049		281,525	822,672
間伐材等	189,895	39,202	359	0		0	232,643
一般木質	30,985	270,451	206	10,049	0	0	48,882
※その他	191,375	749,907	165,044	132,609	※0	335,127	1,574,062
備考							

※その他…FIT証明材以外の材で、建設資材廃棄物や一般廃棄物がある。用途はサーマル利用だけでなくマテリアル利用を含む。

※0…2事業所以下の場合は事業所ごとの実績がわかるため、「0」としている。合計の出荷量にも入れていない

FIT認定事業所実績報告書 出荷量の推移

単位:t

地 域	区 分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
北日本	認定事業所数	6	8	19	21	21	23	21	23	26
	総出荷量	70,255	73,236	82,725	215,178	202,033	198,249	309,252	378,272	412,255
	間伐材等	8,481	9,076	30,123	43,615	61,515	63,137	139,478	157,637	189,895
	一般木質	8,247	6,627	4,112	46,619	46,960	53,285	29,871	35,351	30,985
関東	認定事業所数	13	16	22	27	33	34	38	40	43
	総出荷量	368,649	375,362	675,443	813,861	792,634	755,582	861,999	942,803	1,059,560
	間伐材等	0	0	10,602	8,907	11,224	6,693	7,604	9,973	39,202
	一般木質	53,252	42,713	22,515	34,496	86,343	123,188	169,926	219,894	270,451
東海	認定事業所数	3	4	5	5	5	5	5	7	7
	総出荷量	213,868	349,895	43,714	130,480	114,192	137,613	130,043	176,187	165,609
	間伐材等	0	0	0	0	0	0	0	235	359
	一般木質	0	0	144	0	0	0	32	74	206
近畿	認定事業所数	7	12	12	13	14	14	14	14	14
	総出荷量	11,202	60,337	102,194	121,577	107,942	161,377	139,516	145,301	142,658
	間伐材等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般木質	0	0	539	768	3,084	5,207	8,632	13,094	10,049
中四国	認定事業所数			1	2	2	2	3	2	2
	総出荷量			0	0	0	0	9,576	0	0
	間伐材等			0	0	0	0	0	0	0
	一般木質			0	0	0	0	0	0	0
九州	認定事業所数	10	19	19	19	19	24	24	23	23
	総出荷量	299,158	328,080	401,882	448,790	503,049	501,620	578,495	616,652	616,652
	間伐材等	20,328	31,459	69,439	103,830	119,229	121,569	215,849	232,643	232,643
	一般木質	14,518	23,382	52,275	25,292	44,080	39,056	32,085	48,882	48,882
合計	認定事業所数	39	59	78	87	94	102	105	109	115
	総出荷量	963,132	1,186,910	1,305,958	1,729,886	1,719,850	1,754,441	2,028,881	2,259,215	2,396,734
	間伐材等	28,809	40,535	110,164	156,352	191,968	191,399	362,931	400,488	462,099
	一般木質	76,017	72,722	79,585	107,174	180,467	220,736	240,546	317,295	360,573

※2事業所以下の場合は事業所ごとの実績がわかるため、「0」としている。合計の出荷量にも入れていない

【北日本木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地(事業所)	事業所名	認定日
24全木リ北001	やまがたグリーンリサイクル㈱	鈴木 誠	山形県村山市金谷 1224-11		令和3年10月26日
24全木リ北002	遠野興産㈱	中野 光	宮城県石巻市北村字瀧ノ沢 44-3	石巻工場	令和4年2月16日
25全木リ北001	㈱リソコーポレーション	坪井鈴兒	新潟県新潟市中央区万代5丁目11番30号	木材リサイクルセンター	令和4年4月22日
25全木リ北002	(有)グリーン総業	熊谷 勝	岩手県一関市藤沢町大籠字天ノ穴38番地		令和4年5月15日
25全木リ北004	㈱県南チップ	海老澤秀樹	山形県南陽市和田西大作3368-1	南陽工場	令和4年6月25日
27全木リ北001	㈱グリーンシステム	鈴木 隆	山形県山形市飯塙町字中河原 1629-5		令和3年4月6日
27全木リ北002	ナイスクリーン㈱	石垣 光壹	宮城県仙台市青葉区大倉字山根 16		令和3年5月15日
28全木リ北001	㈱ノブタ興業	信田 勝司	岩手県九戸郡洋野町種市第 51-72-4		令和4年4月25日
28全木リ北003	ウイル㈱	高橋 貴宏	山形県南陽市萩 3452-7		令和4年5月23日
28全木リ北004	㈱みるめクリーン	千葉 明	青森県三戸郡南部町大字森越字野場境 16-3	中間処分場	令和4年5月23日
28全木リ北005	㈱アメカ屋	鈴木 金一	福島県石川郡玉川村南須釜千五沢 196-1		令和4年6月17日
28全木リ北006	㈱アメカ屋	鈴木 金一	福島県石川郡玉川村南須釜小平弓 32-3	チップ工場	令和4年6月17日
28全木リ北007	㈱県南チップ	海老澤秀樹	山形県米沢市大字三沢字白旗 26100-26	リサイクルステーション	令和4年6月25日
28全木リ北011	㈱アルテック	後藤 重信	山形県寒河江市大字日田字中向 400番地		令和5年3月28日
29全木リ北001	㈱源建設	矢澤 源一郎	新潟県上越市吉川区原之町 1856番地 4		令和5年10月5日
29全木リ北002	旭興業㈱	浅野 新一	官城県加美郡香美町字蓬田 48		令和3年2月7日
30全木リ北001	クテシシングセンターホ	桐生 泰一郎	新潟県南魚沼郡茗荷沢 1472番地 1		令和3年8月16日
31全木リ北001	新潟エコササイクル工業㈱	齊藤 隆	新潟県新潟市西蒲区横戸字新河前 445-3		令和4年5月25日
31全木リ北002	㈱村山興業	村山 広幸	新潟県十日町市北新田 132番地		令和4年7月1日
31全木リ北003	三栄産業㈱	西牧 正夫	福島県いわき市南台 3丁目 1番地の24	リサイクルセンター	令和4年9月1日

03 全木リ北 001	グリーンリサイクル㈱	千葉 政浩	福島県二本松市小沢字 115-28	二本松工場	令和 4 年 3 月 28 日
03 全木リ北 002	グリーンリサイクル㈱	千葉 政浩	岩手県北上市相去町大松沢 1-81	北上工場	令和 4 年 3 月 28 日
04 全木リ北 001	㈱リンクコーポレーション	大内 勝行	福島県福島市大笹生字釜平 3-3	リサイクルエコプラント	令和 4 年 7 月 25 日
04 全木リ北 002	㈱山国	山内 完三	宮城県柴田郡川崎町大字支倉字鍛冶谷山 3-8	支倉プラント	令和 4 年 10 月 5 日
04 全木リ北 003	㈱日本建機	金子 良治	新潟県村上市荒川線新田 413-24	日本建機エコサイクルステーション	令和 4 年 11 月 17 日
04 全木リ北 004	㈱大橋商会	大橋 崇	新潟県新潟市北区太郎代御城山 787-1	大橋商会東港工場	令和 5 年 3 月 25 日
05 全木リ北 001	㈱エスティック	五十嵐 敦	福島県喜多方市慶徳町大字豊岡字蛇鶴 3514-5		令和 5 年 6 月 13 日

氏 名	役 職	所 属
鈴木 隆	連合会副理事長	㈱クリーンシステム
中野 光	連合会理事（委員代理）	遠野興産株
海老澤秀樹	北日本協会理事	㈱県南チップ
高橋 秀孝	北日本協会事務局	㈱クリーンシステム

【関東木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地（事業所）	事業所名	認定日
24 全木リ閑 002	㈱クリバラ・パンぷキン	桑原 一男	埼玉県加須市正能字古宮 2 番 5 外	ほくさいウッドリサイクル	令和 3 年 11 月 15 日
24 全木リ閑 003	㈱グーン	藤枝 慎治	横浜市金沢区鳥浜町 17 番地 3	本社工場	令和 3 年 12 月 11 日
24 全木リ閑 004	㈱駿河サービス工業	影山 正樹	神奈川県足柄上郡松田町松田惣領 2655-1	松田工場	令和 4 年 1 月 23 日
24 全木リ閑 005	㈲県南環境サービス	河澄 秋芳	山梨県南アルプス市戸田 916-18	南アルプス総合リサイクルプラント	令和 4 年 3 月 27 日

24	全木リ閑 006	㈱清水インダストリー	清水 秀美	群馬県高崎市官沢町 10-1 群馬県高崎市金古町 1804-5	棗名工場 本社事務所	令和 4 年 3 月 4 日
24	全木リ閑 007	㈲井産業㈱	龜井 寿之	埼玉県熊谷市三ヶ尻 4236	熊谷工場	令和 4 年 3 月 29 日
25	全木リ閑 001	㈱エコネット	小原 拓也	東京都八王子市大目町 776	本社工場	令和 4 年 5 月 23 日
25	全木リ閑 002	遠野興産とちぎ㈱	中野 光	栃木県那須塩原市鳥野目 330-1	本社工場	令和 4 年 6 月 24 日
25	全木リ閑 003	ペイオマス・フェューエル㈱	黒田 栄作	群馬県館林市大手町 11-13	館林事務所	令和 4 年 9 月 27 日
25	全木リ閑 004	フルハシEPO㈱	山口 直彦	千葉県千葉市中央区浜野町 1216-68	千葉リサイクルランド	令和 4 年 6 月 10 日
25	全木リ閑 005	㈱石崎興業	石崎 文治	埼玉県入間市高倉 2-9-39	本社事務所	令和 4 年 8 月 26 日
25	全木リ閑 006	㈱才ダワラ	小田原 哲	群馬県前橋市泉沢町 1250-6	木材チップ工場	令和 4 年 11 月 1 日
27	全木リ閑 001	泉工業㈱	中塚 誠	栃木県佐野市仙波町宇瀬戸野 1568-2 他	佐野リサイクルセンター	令和 3 年 8 月 10 日
27	全木リ閑 002	(有)エンジニアリングウッド	小野澤厚史	長野県佐久市御馬寄 1132 番地	本社チップ工場	令和 3 年 8 月 13 日
27	全木リ閑 003	㈱タケエイ	阿部 光男	千葉県四街道市長岡 272-1	四街道リサイクルセンター	令和 3 年 10 月 19 日
27	全木リ閑 004	新エネルギー供給㈱	寺島 広高	東京都港区浜松町 1-12-11 丸芝ビル 4F	本社事務所	令和 4 年 3 月 28 日
28	全木リ閑 002	㈱WR	小林 明	群馬県沼田市岡谷町 1137-1	本社工場	令和 4 年 9 月 23 日
28	全木リ閑 004	横浜エコロジー㈱	齋藤 哲吉	神奈川県横浜市金沢区幸浦 1-4-2	幸浦工場	令和元年 12 月 13 日
28	全木リ閑 005	㈱タケエイ	阿部 光男	神奈川県川崎市川崎区浮島 10-11	川崎リサイクルセンター	令和 5 年 3 月 16 日
28	全木リ閑 006	J & T 環境(株)	露口 哲男	神奈川県川崎市幸区堀川町 580 番地 ソリッドスクエア東館 9 階	本社事務所	令和 5 年 3 月 30 日
29	全木リ閑 001	勝田環境㈱	望月 福男	茨城県ひたちなか市高野大房地 1967 番地 2	RC 事業部	令和 5 年 4 月 26 日
29	全木リ閑 002	㈱エコナビ・リフайн	鈴木 隆男	宮城県仙台市青葉区本町 2-10-33 第 二日本オフィスビル 8 階	㈱エコナビ・リフайн	令和 5 年 4 月 26 日
29	全木リ閑 003	㈱リ・フォレスト	小林 明	群馬県沼田市石墨町 2110-1	本社リサイクル工場	令和 3 年 1 月 10 日
29	全木リ閑 004	(有)ケイ運送	小林 計一	群馬県利根郡みなかみ町政所 1059	みなかみ営業所	令和 5 年 10 月 20 日
29	全木リ閑 005	㈱神山緑地産業	神山 隆弘	長野県長野市若穂川田字和田 2401-13	㈱神山緑地産業リサイクルセンター	令和 3 年 3 月 23 日

30全木リ閑 001	(有)神辺土建	神辺 智行	埼玉県入間郡毛呂山町大字葛質字 新田前 1105番1、7	毛呂山作業所	令和3年12月6日
30全木リ閑 002	(㈲)大誠農林リサイクルセンター	大澤 正男	山梨県都留市朝日馬場 2013番地1	本社工場	令和3年12月6日
30全木リ閑 003	東栄倉庫㈱	石井 榮	神奈川県相模原市中央区清新8-16-1	本社事務所	令和4年1月18日
30全木リ閑 004	ウッドチップサービス㈱	石井 榮	神奈川県相模原市中央区清新8-16-1	本社事務所	令和4年1月18日
30全木リ閑 005	㈱後藤造園	後藤 誉夫	東京都足立区入谷7-3-17	グリーンライフ郷	令和4年3月25日
31全木リ閑 001	㈱タケエイグリーンリサイ クル	秋庭 勉	神奈川県横須賀市浦郷町5-2931-15	横須賀工場	令和4年11月28日
31全木リ閑 002	㈱紳商	茂木 照男	千葉県野田市下三ヶ尾264-1	紳商リサイクル事業所	令和5年3月2日
02全木リ閑 001	青柳造園㈱	青柳 敬之	栃木県下野市上古山1371-3	本社リサイクルセンター	令和5年5月1日
02全木リ閑 002	㈱EGL	小島 崇嘉	東京都中央区八丁堀4-10-4ヒ ューリック八丁堀第2ビル8階	本社事務所	令和5年10月20日
02全木リ閑 003	東関リサイクル㈱	石井 大介	千葉県八街市八街に292	本社工場	令和5年10月20日
03全木リ閑 001	㈱グリーンチップエナジー	飯塚 裕之	群馬県邑楽郡千代田町赤岩2931-1	本社事務所	令和3年8月10日
03全木リ閑 002	㈱彰工業	松村 彰彦	栃木県足利市山川町714-1	本社事務所	令和3年8月10日
04全木リ閑 001	㈱みすゞ工務店	前島 茂義	長野県上田市仁古田1234-5	MTR プラント	令和4年4月8日
04全木リ閑 002	㈱ヨシザワ	吉澤真理子	栃木県さくら市鷲宿4534-2	中間処理施設	令和4年10月26日
04全木リ閑 003	㈱藤榮商事	新藤 友啓	埼玉県さいたま市岩槻区大字末田 字上手2048-2	岩槻リサイクルセンター	令和5年3月3日

審査委員

氏名	役職	所属	氏名	役職	所属
矢吹 聰二	連合会監事	住友林業フオレストサ ービス㈱	仁木 智之	関東協会理事	フルハシEPO㈱
原 信男	連合会専務理事		大田 祐太朗	関東協会理事	㈱タケエイ
古敷谷裕二	関東協会理事	㈱グーン	田中 元浩	関東協会	㈱エコグリーン

【東海木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地（事業所）	事業所名	認定日
27全木リ東002	（有）八開チップ	飯尾 清女	愛知県愛西市下東川町巖之段74番地		令和3年2月23日
28全木リ東001	（株）アイ・エヌ・ジー	青山 典生	三重県桑名郡木曽岬町和泉 279-1		令和4年1月15日
28全木リ東002	（有）ヤマガネ商事	金安 栄丸	愛知県岡崎市保母町字木崩 1-66		令和4年4月28日
28全木リ東003	（有）松井工業	松井 忠博	愛知県豊橋市牛川町西側 44-1		令和4年11月1日
03全木リ東001	フルハシEPO [㈱]	山口 直彦	愛知県半田市東町4-53	愛知第七工場(半田)	令和3年7月22日
03全木リ東002	フルハシEPO [㈱]	山口 直彦	愛知県弥富市楠 1-118	愛知第二工場(弥富)	令和3年8月17日
03全木リ東003	フルハシEPO [㈱]	山口 直彦	岐阜県多治見市笠原町梅平 3992-1	岐阜第一工場(多治見)	令和3年8月17日

審査委員

氏 名	役 職	所 属
山口 昭彦	連合会理事-	フルハシEPO [㈱]
石田 謙治	連合会理事	岐阜代用燃料 [㈱]
戸田 克彦	東海協副会长(代理)	名古屋木材倉庫 [㈱]
松井 忠博	東海協会事務局長	南松井工業

【近畿木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地（事業所）	事業所名	認定日
26全木リ近002	三重中央開発 [㈱]	平井 俊文	三重県伊賀市予野字鉢屋 4713番地	三重事業所	令和5年11月4日
26全木リ近003	三重中央開発 [㈱]	平井 俊文	京都府木津川市加茂町大畑背谷 38番地 1	京都事業所	令和5年11月4日
26全木リ近004	大栄環境 [㈱]	金子 文雄	兵庫県三木市口吉川町吉祥寺谷 132-8	三木リサイクルセンター	令和5年11月6日
27全木リ近001	大栄環境 [㈱]	金子 文雄	兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目 19-1	西宮リサイクルセンター	令和3年3月6日
27全木リ近002	大栄環境 [㈱]	金子 文雄	大阪府和泉市テクノステージ2丁目 3-28	和泉リサイクルセンター	令和3年3月12日
27全木リ近004	（有）ReEARTH	林 忠實	京都市伏見区深草神明講谷町 4	本社事業所	令和3年4月3日
27全木リ近005	株神戸ポートサイクル	寄尾 延夫	神戸市中央区港島 9丁目 13	本社事業所	令和3年4月16日

27全木リ近006	和歌山代用燃料㈱	中尾 準一	和歌山市西浜 1660 番地	本社事業所	令和 3 年 11 月 10 日
27全木リ近007	ハリマ産業エコテック㈱	梶原 成郎	姫路市網干区浜田 1223-10	本社事業所	令和 3 年 11 月 16 日
27全木リ近008	㈱ナカミチ建機サービス	有城 功二	三重県南牟婁郡紀宝町神内 1261-2	本社事業所	令和 3 年 11 月 20 日
29全木リ近001	㈱エスケイカンボス社	金森 隆志	滋賀県長浜市泉町 1370 番地	本社事業所	令和 5 年 7 月 25 日
30全木リ近001	中一木材㈱	中永 了之	和歌山県紀の川市北中 386 番地 3	本社事業所	令和 3 年 11 月 27 日
02全木リ近001	DINS 關西㈱	下地 正勝	大阪府堺市西区築港新町四丁 2 番 3 号	R A C 事業所	令和 5 年 10 月 21 日

審査委員

氏名	役職	所属
鷹野 賢次郎	連合会理事	木材開発㈱
船越 登	連合会理事	関西チップ工業㈱
伊藤 幸助	近畿協会	㈱ I . T . O
田渕 茂雄	近畿協会事務局	木材開発㈱

【中四国木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地(事業所)	事業所名	認定日
01全木リ中四001	徳島リサイクル工業㈱	美馬 豊	徳島県阿波市阿波町五明 141-1		令和 4 年 12 月 1 日
02全木リ中四001	㈱アースクリエイト	三好 哲弘	岡山県小田郡矢掛町中 170		令和 3 年 1 月 1 日

審査委員

氏名	役職	所属
岡崎 博紀	連合会理事	㈱赤崎トランスネット
片岡 重治	中四国協会監事	(有)片岡久工務店
田中 一正	連合会監事	まるふく商事㈱

【九州木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地（事業所）	事業所名	認定日
24全木り九001	中山リサイクル産業㈱	中山 智	福岡県糟屋郡須恵町植木 81-5 大分県大分市大字日吉原 1-33	須恵工場 大分工場	令和3年12月7日
24全木り九002	ホクザイ運輸㈱	河本 一成	大分県佐伯郡本庄大字堂ノ間 933-1 福岡県北九州市小倉北区西港町 72-30	グリーンパーク本匠 本社工場	令和4年1月24日
24全木り九003	㈱中央環境	上田 恒久	長崎県長崎市西海町 2739-4	リサイクルセンターーチ プロ工場	令和4年2月8日
24全木り九004	(有)九州マーク運輸	林 弘道	福岡県朝倉市杷木星丸 765 番地の1	添田工場	令和4年3月28日
25全木り九001	中山リサイクル産業㈱	中山 智	福岡県東区箱崎ふ頭 4-13-1 佐賀県嬉野市塩田町大字久間乙 2265	箱崎工場 佐賀工場	令和4年5月1日
26全木り九001	大東商事㈱	小原 英二	熊本県熊本市北区楠野町 453-1	新港リサイクルセンターー	令和5年11月17日
27全木り九001	中山リサイクル産業㈱	中山 智	大分県杵築市山香町大字久木野尾 2002-26	グリーンパーク杵築	令和3年4月27日
27全木り九002	㈱山崎紙源センターー	山崎 孝一	宮崎県宮崎市江平東町 6 番地 13	都城営業所	令和3年7月1日
27全木り九004	(有)九州マーク運輸	林 弘道	福岡県朝倉市杷木星丸 765 番地の1	黒木工場	令和3年12月1日
27全木り九005	有価物回収協業組合石坂グループ	石坂 孝光	熊本県熊本市東区戸島町 2874 番地	本社工場	令和3年12月1日
27全木り九006	㈱土佐屋	岡部龍一郎	鹿児島県鹿児島市宇宿二丁目 9 番 11 号	土佐屋リサイクルセンターー	令和3年12月1日
27全木り九007	㈱イワフチ	岩渕 慶太	佐賀県杵島郡江北町大字下山田 3305-1	西日本広域リサイクルプラザ	令和3年12月21日
28全木り九001	中山リサイクル産業㈱	中山 智	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木 2114 番地の内	グリーンパーク津奈木	令和4年1月1日
28全木り九002	㈱エコポート九州	石坂 孝光	熊本県熊本市西区新港 1 丁目 4-10	本社工場	令和4年2月1日
30全木り九001	㈱モリセ	森瀬 幸孝	長崎県雲仙市国見町土黒甲 28-10	モリセリサイクルプラン ト	令和3年11月1日
30全木り九002	中山リサイクル産業㈱	中山 智	大分県臼杵市野津町大字老松 2224	臼杵ヤード	令和3年12月10日
31全木り九001	グリーンパーク N&M㈱	河野 秀彦	福岡県朝倉郡筑前町森山 1412 番地 2	筑前工場	令和4年10月21日

02全木り九 001	中山リサイクル産業㈱	中山 智	福岡県築上郡築上町大字下香楽 658	グリーンパーク築上	令和3年1月 11日
05全木り九 001	中山リサイクル産業㈱	中山 智	福岡県うきは市吉井町鷹取 1093-12	うきは工場	令和5年1月 16日
05全木り九 002	㈱天草・リサイクルセンター	松本 仁	熊本県上天草市松島町今泉 4289番地	天草・リサイクルセンター	令和5年7月 1日

審査委員

上田 恒久	連合会理事	中央環境㈱	中山 智	九州協会理事	中山リサイクル産業㈱
小原 隆二	連合会理事	大東商事㈱	河本 一成	九州協会理事	ホクザイ運輸㈱
小林 勇輝	九州協会監事	木材開発㈱	河野 秀彦	九州協会事務局	中山リサイクル産業㈱